

広報清内路



村政かわら版

清内路村役場

〒395-0401

清内路村 375-1

TEL: 0265-46-2001

FAX: 0265-46-2016

E-mail: info@seinaij.jp



どこでも村役場 各地区でスタート

村民と役場が日々の生活や村の将来について語り合う



西・宮下地区（上公民館 8月24日）



中・登地区（下公民館 8月18日）



土佐・堀地区（憩いの家 8月31日）

どこでも村役場 出席状況

地区	出席者数	世帯数	比率 (出席者数/世帯数)
市堤・清水・川裾 (※ 川裾は再度開催)	39	90	43.3%
中・登	12	66	18.2%
西・宮下	16	37	43.2%
宮上・滝の浜・アラヤ	15	37	40.5%
土佐・堀	9	35	25.7%
計(延べ数)	91	265	34.3%

※ 他地区への出席や重複出席については、加味していません。出席した方の数を単純に集計したものです。

**村や地域について
皆で考えましょう**

村民の皆様にご説明や重要施策等をご説明し、様々なご意見を拝聴する「どこでも村役場」地区説明会が、8月18日（木）から9月6日（火）にかけて、村内5か所（川裾は再度開催）で開催されました。

よるす相談承ります

この事業では、年4回の地区説明会のほか、各地区で役場職員が「地区担当」を務め、村民の皆様による相談を承ります。まずは担当の顔を覚えてください。定期的開催する地区説明会に限らず、お声をかけていただければ「どこでも」ご意見拝聴に伺います。ざっくばらんにお話をいたしましょう。

一人でも多くのご出席を

今回の出席者数は91名。およそ全世帯の3分の1に相当する人数のご出席をいただきました。住民懇談会など、ご意見を拝聴する機会は従来もありましたが、「大きな集会では発言しにくい」とのご意見が多いため、説明会を「地

区ごと」としたものです。

村政に関するご意見は、どなたもお持ちのほうです。発言せずとも参加して一緒に考えることに意義があります。

今回は一人でも多くの方のご出席をお願いいたします。

主なご意見とお答え

今回寄せられた主なご意見について、お答えします。

主なご意見 括弧内は回答
ホームページやオフトークの内容を更新して欲しい。
(ホームページから更新を
始めました。)

巡回バスは時刻改正により大変使いやすくなった。

(陸運局の認可を受けました。路線も変更します。)

一番清水、清内路あかねといった村の特産品を育てたい。あかね焼酎の開発など情報公開をお願いしたい。

(村の取り組みをお伝えし、皆様と一緒の特産品の開発を考えていきます。)
授産所の経営改善をどうするか。(下清の方から)

(多くの方にご利用いただけるよう、職種開拓を検討しております。)

今回は11月開催の予定です。

一番清水の会発足

一番清水の会は、8月22日(月)、老人福祉センターで総会を開き、正式に発足しました。



新体制 45名でスタート

「村の一番の顔をきれいにしたい。自主的な参加で気楽なものにしたい。」との趣旨説明があり、アダプトシステムや清水の紹介などについても活発な議論がなされました。

決定事項 (敬称略)

会の名称 一番清水の会
役員 会長 野村和男
副会長 櫻井俊数
副会長 櫻井信和
会員募集窓口(役場内) 担当 原 恵子

なお、今回の環境整備の日程は次のとおりとなりましたので、ご都合のつく方のご参加をお願いいたします。

環境整備の日程

日時 9月25日(日)
午前7時30分
場所 役場集合
作業内容 枝打ち、草刈り等

上清内路友の会 アダプトを締結

以前から道路の美化活動を行っていた上清内路の女性グループ18名(代表 原 未さん)の皆さんが、「上清内路友の会」と名称を改め、国道256号線沿線の清掃や花の植栽などの美化活動に取り組んでいます。会は、県、村との3者によるアダプトシステムの協定を8月15日に締結し、住民と行政の協力支援体制が整いました。今後の活動が大いに期待されます。

アダプトシステムとは?

県が管理する道路でボランティアによる美化活動等を行うグループ(里親)を支援する制度。県が花の苗木やプランター、簡単な作業用機材などを提供し、村は集められたゴミの処理や里親との連絡調整を行う。里親の名称等を記載した看板も県が設置する。

行革委と懇談会の意見交換会を実施

第1回委員会

行財政改革推進委員会は、8月12日(金)、役場会議室で第1回委員会を開きました。会長、副会長を選出した後、役場から行財政の現状と課題についてご説明しました。

決定事項 (敬称略)

役員 会長 原 利正
副会長 小山利栄子
副会長 原 勝城

第2回委員会

続いて、9月7日(水)、老人福祉センターでやらまい改えまい懇談会との意見交換会を行いました。

主なご意見 括弧内は回答

議員はもっとしつかり。借地料の値下げ交渉や議会広報にも取り組んで欲しい。(会長:広報を充実する)
村民は去年のことを忘れてしまった。もっと危機感を持たなければ駄目だ。
こうした検討を数年前からやっていたら、これ程の借金を作らなくて済んだ。
自然園の売上げは大丈夫か
会計の管理は民間並みに徹

底的にやって欲しい。

(精度を高めるよう努める)
ペット持込みの検討を望む。
(すでに認めている)

オフトークはもうやめた方がいいんじゃないか。
(懇談会:使う努力をする)

下診療所跡地の活用は。
(売却の方法を検討中)
上公民館と憩いの家は両方はいらないんじゃないか。
(利用者の意向を尊重)

日曜に子どもが国道を歩く歩道を付けて欲しい。
(県にお伝えする)

その後、県の林 宏行さん、佐々木高行さんからアドバイスをいただき、林さんから次のようなお話がありました。

たとえ財政再建団体になっても、そこからどうしていくか、ということが重要
職員はこれ以上削減できない。ではどうするか。村民の皆さんが役場に入っていけばいい。職員以外でもできる仕事はないか、一人ひとり何が
できるか、よく考えて欲しい。

村民、議会、役場のそれぞれが、村のために何ができるか、改めて考え直すときが来ているようです。